

平成29年度 第1回富山県農政審議会の概要

1 日 時 平成29年6月2日（金） 14:00～15:30

2 場 所 富山県民会館611号会議室

3 出席者 委員17名、代理出席3名（委員数24名）

4 あいさつ（農林水産部長）

平成30年産からの行政による米の生産数量目標配分の廃止等を見据え、国内外の動きに適時・的確に対応し、農業の成長産業化を積極的に進めていくことが重要となっている。本県農業・農村を取巻く情勢の大きな変化を見通した中長期的な施策の展開が求められていることから、本県農政の基本指針である「富山県農業・農村振興計画」の見直しを進めている。本日は、振興計画の骨子案について提示させていただくので皆様のご意見・ご提言をいただきたい。

5 議 事

（1）富山県農業・農村振興計画の進捗状況について

（2）新たな「富山県農業・農村振興計画」の骨子案について

6 委員の主な意見

・担い手による経営面積割合が28年目標の65%に対し、実績で進捗率が約1割満たなかったのは目標が高かったのか、それとも他に理由があったのか。

→28年目標の65%に対し57.6%にとどまった。目標が若干高いこともあるが農地中間管理事業の制度の見直しという運用上の要因もある。ただ、全国的には上位から7番目の割合で非常に高い水準を達成している。今後、農地の受け手への支援や農業委員会との連携強化により担い手への農地集積を進めたい。

・「食品表示が適正な店舗の割合」とあるが、食品表示が適正でない店舗はあるのか。

→一般消費者に食品表示ウォッチャーを委嘱し、消費者にとってわかりにくい表示でないかチェックをしてもらっている。法に触れる不適正という意味ではなく、原産地の表示の記載漏れ等といった軽微なミスが多いのが実態である。

・新品種「富富富」の価格設定が重要と思われるが、戦略について伺いたい。

→各県の新品種との競争を勝ち抜くためには価格設定が非常に重要であり、富山米新品種戦略推進会議の中でご意見をいただき慎重に検討したい。また、品質を高めていくための生産者登録制の要件、消費者に米のすばらしさが伝わるような丁寧な説明が重要と考

える。他県での成功・失敗事例を検証して進めたい。

- ・農業の担い手に関しては、兼業農家が20%以上は残らないと農村地帯は維持できないと思う。そのための事業承継に向けた取組みを県として進めていくべきでないか。

→兼業農家は地域の農業・環境を守るために大変大切であり、検討していきたい。

- ・目標指標から有機・特別栽培農産物の栽培面積を削除する案になっているが、エコファーマーの増加にあわせて指標として整理しておくべきでは。

→エコファーマーの指標を残すこととバランスをとる意味でも、有機・特別栽培農産物の栽培面積については指標を残す方向で検討したい。

- ・農業所得は新規就農者にとって大きな意味を持つ。主穀作だけでなく、体系別にいろいろあったほうがいい。

→農業所得に関しては、これまでの計画と同様、単なる所得を示すだけでなく経営類型別、規模別ごとにパターンを細分化してわかりやすく示したい。

- ・園芸作物の生産力の強化・拡大には、いかに若い生産者に野菜づくりを魅力に感じてもらうかが重要。基盤整備とともに指導体制を一層強化してもらいたい。

→県の人員体制が厳しい中ではあるが、メリハリをつけ、農協や市町村職員とも連携しながら取り組んでいきたい。

- ・新品種「富富富」を振興計画の中で前面に打ち出せばどうか。新品種は生産方法を十分検討すべき。

- ・富山県のたまねぎについて、県外への販路を拡大して6月下旬から9月中旬頃まで販売が継続できるような戦略及び病害対策の支援で、販売額が6億、7億円に到達するよう県には力を入れてもらいたい。

→JAとなみ野のたまねぎが好調に推移しているが、これまで1億円産地づくりとして、各地域の実情に応じて大きな産地にしていくことを目標に取り組んできた。今年はブランドマーケティング戦略で園芸主体に首都圏を中心に新たな販路を拡大していきたい。

- ・中山間地域については、今後の人口の推移等々を考えるとマンパワーの面でもこれからかなり厳しくなると思われる。集落営農等の担い手の状況はどうなっているのか。

→人口や担い手の減少、鳥獣被害の発生、耕作放棄地増加の中で、中山間地域での集積を高めることは大きな課題。中山間地域は平地に比較して集積が進んでいない。これまでの出し手の支援とともに中山間地域の受け手にも支援をして地域を守る側面的な取組みを行っていきたい。

- ・中山間地域の活性化については、県外から中山間地域への移住者数や世帯数などを指標に加えてはどうか。
- ・食育の取組みを進める視点も必要。
また、ブランド化については、本県の特徴であるおいしくきれいな水と農産物をセットにした取組みはどうか。
- ・県外の方にとって富山県産の食材の知名度が不足しているので富山といえば〇〇（例えば石川県の加賀野菜など）を育てて、強力的にPRしてはどうか。
- ・目標を掲げるのは大事だが、その目標にどのようにたどり着くのか、その仕組みが良く見えない。所得を上げるためには高品質を見える形でアピールしないといけない。有機JASやGAP、GI取得を推進していくのも一つの方法。
→目標到達への道筋については、これまでも農業経営体のさまざまなパターンごとにモデルをつくって支援し、成功事例の波及を狙って取り組んできたので、どういう見せ方がいいのか工夫していきたい。
- ・農業所得については、どうやって上げていくかのストーリーや若い人に対し本当に農業の魅力を感じてもらえるような金額であることが必要。富山県の状況に応じて平場と中山間地域それぞれのエリアの担い手像を弾力的に考えていいのでは。
- ・自分は農業と加工を両立してきてようやく利益を確保できた。農業をめざす若い夫婦には、そういった農業の厳しさも伝えていく必要がある。